

校 園 名：香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎

所在地：〒香川県高松市番町5-1-55

電話番号：087-861-2393

記載日：平成28年5月20日

記載者：津田 千明

記載者役職：教頭

本園のおおまかな特色について：

*豊かな自然環境を生かした保育

・附属中学校跡地に建てられたので比較的樹齢の長い大木（ユーカリ・クスノキ・メタセコイヤなど）や、実のなる木（ウメ・カリン・ビワなど）があり、子どもたちが、さまざまな木に触れたり、自分たちで実を収穫しジュースをつくったり、県下に3本しかないカシワの葉を使って、保護者が“かしわ餅”を手作りしたものを親子で食するなど、家庭ではなかなかできない経験を大切に引き継いでいる。

*小学校との連携活動

・同一キャンパス内にある附属高松小学校との幼小連携活動がカリキュラムに位置づけられ、定着している。年間に数回はお互いの教員がそれぞれの授業・保育を見て、討議をしたり、幼稚園でのアプローチカリキュラム、小学校でのスタートカリキュラムを作成しお互いに、意見交換したり、毎年、研究会には幼小交流活動を公開している。

また、それぞれの敷地に何も境界線など無いため、休み時間には小学生が園舎の敷地にやってきて自由に遊びに参加したり泣いている園児を見つけて小学生が連れてきたり、園児が屋外でしている小学生の授業を遊びながら観察していたり、自然な交流がみられる。

*市の中心地にあるので様々な文化環境を生かした保育

・市立美術館・市立図書館・栗林公園などの文化施設が園の近くにあるので、利用し子どもたちに本物に触れる体験をさせることができる。

本園の卒業生の活躍状況について：

- ① 卒園児名簿は残されているが、追跡調査を行っていない。
- ② 連絡進学のため小学校の同窓会情報において、卒園児について情報が得られる。

本園勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻った後の活躍状況について：

- ① 附属高松学園（幼稚園・小学校・中学校）に勤務した教員で構成されている「附属高松学園洗心会」を通して、教員間の交流が図られるようにしている。年に1回名簿を作成し、近況報告など行う。
- ② 活躍状況はその際、情報として入る
- ③ 本園勤務経験者は、県教育委員会指導主事として、県内の幼児教育の指導にあたっていたり、公立小学校で管理職として活躍したりしている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○誕生児が能動性を発揮し大きな成長のきっかけとなる誕生会

本来、誕生会は誕生児が皆から祝ってもらえる受け身の立場であるが、本園の誕生会は、毎月その月の誕生児が、職員と共に秘密裡に1週間程度練習して、誕生会当日に、誕生児の保護者にも参観してもらい、劇や手品、得意なことなどを皆の前で披露する。その際は、カメラやビデオでの撮影は禁止して、保護者には、レンズ越しではなく自分の目で見て、しっかり応援しながら我が子だけでなく全体を見ることの大切さを実感してもらっている。

誕生児は1つ大きくなったという自覚が大きくなり、新しいことに挑戦したり、皆の前で発表したりすることを通して自信を強め、大きな成長のきっかけとなっている。また保護者も、我が子の成長を実感できるとしてとても好評である。

また、職員が手作りの飛び出す誕生お祝いカードを一人ひとりにその園児が、今興味を持っていることや、大好きな絵本をテーマに作って、当日渡す。世界にたった一つのオリジナルの誕生お祝いカードには担任からの心のこもったメッセージもあり大人になっても大切にしておいているとの声がある。



○保護者企画のわかうめ文化の集い

保護者企画の自主的な文化講演会を企画し、年間3回、子育てに関することや心に潤いを持たせるために、「マナーアップ術について」「整理術について」「護身術（合気道）」などユニークな題材の講演会（体験研修会）を行っている。

○手作りの教材

本園は手作りのオリジナルの出席ノートを作成している。毎日シールを貼っていくうちに、数字並び方の規則性に気づいたり、園児が保護者とともに曜日や日付を書き込んだりして、カレンダーに興味を深めたり、知的欲求も満たせるようにしている。また、夏休みには、{おかあさまの欄}を設け、夏休みのエピソードや生活振りが窺えるようになっている。他にも、裏表紙には園舎の見取り図および樹木地図が載っていて、園児が地図を見ながら園内を歩くなどする。

また、2年保育なので、2年間通して1冊の出席ノートを使うので、保護者に手作りのカバーを作ってかけてもらっている。保護者としても2年間の子どもの成長の記録として、大切に保管しているとのことである。

地域における本園の存在

○研究発表会においては、県下の公立・私立幼稚園、保育園、教育委員会からの参加は200名余りあり、県内外の小学校からも参加者が多く、毎年幼小交流活動の新しい提案を発信している。

また、県内新規採用者研修の一貫として、新規採用者が全員参加している。

○幼児教育同好会の実施

年間5回程度（2か月に一度の割合で第3土曜日）、県下の幼児教育関係者（国公立幼稚園子ども園・私立幼稚園・保育所等）会員（約30名）が、集まり、幼児教育の理論研究をしたり、話題事例提供者からの事例を基に幼児理解を深めたり、講師を呼んで実技研修をしたり、芸術鑑賞をしたりして、さまざまな研修の場所を企画・提供している。

○県下の幼稚園・保育所・こども園とのつながり

高松市立子こども園・幼稚園教育研究会の一員として、保育公開や討議、また人権・同和教育研修などに年間を通して参加している。高松市立子こども園・幼稚園PTAとも、保護者研修やバレーボール大会などの交流を随時行っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

○大学から近いので学生が授業の一環として、参観に来たり、実習後はボランティアとして保育の補助に入ったりして、長期に渡って継続して保育に関わる中で実習では学べない細部の教員としてのスキルを学ぶことができる。